

第2回新おおた教育ビジョン策定懇談会 議事要旨

1 日 時 令和5年7月28日（金）午後2時から午後4時まで

2 場 所 大田区立消費者生活センター2階 大集会室

3 内 容

(1) 新ビジョン体系（案）についての意見聴取

4 小黒教育長挨拶

今回の懇談会では、新しい教育ビジョンの体系案についてご意見をいただきたい。今回の体系案の策定にあたっては、第1回の懇談会でのご意見を参考にしたほか、区立小中学校の全校の校長から体系案についての意見を出してもらうなど検討を重ねてきた。

この体系案は、現状において大田区の抱える多くの教育課題をどのような枠組みで捉えていくのかという施策、柱立てとして大変重要な部分であると思っている。

今の子どもたちが生きていく将来社会は、気候変動の問題、地球環境の問題、少子化・高齢化など様々な課題があり、今よりもさらに社会の変化が早く、大きくなっていくと考えている。このような予測困難な課題を見通して、どのように体系に表して教育を進めていくかという視点で、重ねて検討していくところである。

子どもたち一人ひとりが問題を自分事として考え、自分で多様な人と協働して課題解決していく力をつけること、グローバル化が進展する中で、世界とつながり、相互理解をしながら、ともに持続可能な社会を形成していく力を身につけていくという教育を、体系的に明確に示していきたいと考えている。

一人ひとりの子どもに応じた学び、教育環境や教員の働き方など、学びを支える現実的、また抜本的な政策についても推進していく必要がある。

様々な課題があるが、本日、委員の皆様のそれぞれのお立場から、この体系案についてご意見をいただき、新たな教育ビジョンの目指すべき方向性をさらに明確にしていきたいと思います。

5 委員からの主な意見

<基本方針について>

・これまでの「未来を創る力」ではなく、「未来を創り出す力」に変えたことで、子どもたちが未来というものを知り、それをどうしていくか自分で考えながら、どのように未来を生きていく自分になっていくか、というところへ広げようとしたニュアンスを感じ取った。（堀内委員）

<基本目標について>

「基本目標1 持続可能な社会を創り出すグローバル人材を育成します」

- ・想定外の課題が突然あったときに、みんなで知恵を出し合って、協力して、その課題を解決していく力は、20年後、30年後になってくると、日常的に求められる力になってくるのではないか。それを先読みして、今から育てようとしていることは、本当に素晴らしいことだと思う。（松橋委員）
- ・未来を創り出す力というところに学び続ける意欲を育てていくという表現が入るといい。（阿部委員）
- ・大田区らしい子どもについて、英語と多文化交流、STEAMにおいて東京都でナンバー1、国でも1番になるぐらいの教育力をお願いしたい。（星山委員）

「基本目標2 誰一人取り残さず、子どもの可能性を最大限に引き出します」

- ・子どもたちの多様性もあるが、ぜひ先生方にも多様性があるといいということを肯定的に書いていただきたい。校長が変わると学校も変わるし、PTA側から見て対応も変わっていくが、それはいいことだと捉えていいと思っている。(溝口委員)

「基本目標3 すべての区民が未来を担う子どもを育て、共に学び続けます」

- ・「地域とのかかわりを通して地域への愛着や誇りを育み、将来の地域の担い手を育成していく」という言葉がとてもいいと思った。子どもたちが地域の盆踊りやお祭りなど各種イベント等に参加して、楽しい思い出があればその地域への愛情が育まれると思っている。ぜひ、学校にも広報活動をしていただきたい。(富田委員)

<個別目標について>

- ・現ビジョンでは、今回の体系でいうと目標3の知徳体が核になっていた。今回は目標1、2が核になっており、これが未来を創る子どもたちにとって、非常にキーになるという頭出しをしている。とりわけ「おおたの未来づくり」という独自教科をつくるという発想を非常に楽しみにしている。(有村委員)
- ・目標1と2のキーワードは、情報と国際である。子どもたちはこれを目標にして、目標3にある知徳体をベースに、先生の力、地域の力をかりながら生きていくという構造図がしっかりできていて、目標1から8は並んでいる形になるが構造化されているように受け取る。そのあたりをどのように図式にしていくのか期待している。(有村委員)
- ・目標3と目標5の一人ひとりが個性と能力をとという言葉がかぶっている。目標3は、大きなくくり、全体的な部分というところで一人ひとりでいいと思うが、目標5は、特別支援、不登校、相談・支援機能に焦点を当てているということは、個人に目を当てたほうがいいのではないかと。つまり、自分らしくいきいきと生きるための学びを支援しますというような個に特化した内容になると、より分かりやすいし、表現がかぶらなくていいかと感じた。(阿部委員)

「目標1 予測困難な未来社会を創造的に生きる力を育成します」

- ・STEAM教育は非常に科学的な言葉だが、特にA(芸術、リベラルアーツ)が大事だと言われている。単に科学だとか、エンジニアリングだけではなく、やはり芸術を大事にしないと心は育たないという主張があると思う。(有村委員)
- ・情報活用能力は、情報モラル前面というよりは、ICTの関係をより積極的に、肯定的に活用していくようなニュアンスが出るという。(溝口委員)

「目標2 世界とつながる国際都市おおたを担う人材を育成します」

- ・国際都市おおたを具体的に実現していこうと前面に出ているところが、今回の大きな特徴になっている。(有村委員)
- ・国際都市おおた、羽田空港のある大田区というのは、多様な文化の方たちの玄関口であり、実際、生活している方もいる中で、子どもたちもそうだが、地域の方たちもそれを認め合うという部分をもっと前面に出していくのが大田区の良さではないか。(小林委員)
- ・人権教育などにより、少しずつ隣にいる色々な子どもたちのことも理解していくということがこれからは本当に大事になっていく。そういうことの広がりが世界とつながり、世界の色々な人種と仲よくしていくということにつながっていくと思う。(鈴木委員)

「目標3 一人ひとりが個性と能力を発揮しながら生きていく上で基礎となる力を育成します」

- ・コロナがあった3年間で心と体の成長が滞ってしまったのではないかと心配しており、そこに力を入れてほしい。(加藤委員)
- ・笑顔とあたたかさあふれるということは、自身と他者を両方含んでいる。自らが笑顔になり、あたたかい気持ちになって、初めて他者に対してそれができると思う。そう考えると、確かな学力の育成、豊かな心の育成、健やかな体の育成という順番だが、まず心ではないか。(小林委員)
- ・いじめの対応という言葉ではなく、いじめの予防と根絶、自殺の根絶、いじめから絶対に守り抜くという強い決意を、校長から発信していただきたい。命の大切さや人権への理解を醸成することにもつながる。また、専門人材による子どものメンタルヘルスケアに取り組んでいただきたい。(星山委員)
- ・VUCAの時代をたくましく生き抜くため、生活指導面で自尊感情や自己肯定感を高める教育を推進していただきたい。SDGsと関連させて、地域の学校独自のカリキュラム開発の中で実践してはどうか。(星山委員)
- ・美術館の見学は、交通費さえ出せば小中学生は入館料無料である。美術館は、知識ではなく、判断力や決断力を身につけるには非常にいい。また、偏差値にかかわらず誰でも鑑賞能力をもつことができる。ぜひこれを教育の中に入れてほしい。(河合委員)
- ・いじめへの対応は、非常に重要で深刻な問題であると思っている。様々な対応をしているにもかかわらず、深刻な問題が全国で発生し続けていて、大田区も例外ではなく課題があるのではないかと考えている。このいじめ対応という表現も含めて、ビジョンの中の位置付けについてご検討いただきたい。(尾木座長)

「目標4 学校力・教師力を向上させます」

- ・現状、学校では、働き方改革がもう何年間も言われてきて、取り組んでいるところだが、それでも残業時間が月80時間を超えるような教員は多数いる現実がある。重要度が低くなった施策のスクラップや新たな人の配置、様々な諸機関の取組はそれぞれの中で行い、学校は学校でなければできないことに力を注ぐことで、学校がベストコンディションでベストパフォーマンスを出せるようになることを期待する。(松橋委員)
- ・ICTを活用して、先生の授業形式を個別指導の形に変えた方がいい。ICTを使って自主学習をすれば、優秀な子どもは十分に学習できるし、質問によってそれを深めることもできる。先生の姿勢としては、教えるというところからサポートするという立場になると、先生はすごく楽になる。生徒のことを顧みることができるようになる。(河合委員)
- ・教育にはお金がかかるということを認識し、新たな目標に向けては先生の努力がまた必要になってくるので、先生を助ける人材を増やしていただきたい。(富田委員)

「目標5 一人ひとりの個性と能力を引き出す学びを支援します」

- ・特別支援教育の充実について、特別支援教育の研修や区立小中学校の巡回指導など、都立矢口特別支援学校の特別支援教育コーディネーターを中心に連携して進めていきたい。また、副籍制度により、都立矢口特別支援学校の子どもが地元の区立小中学校と交流する中で、区立小中学校の子どももそういう姿を見て豊かな心を育てていただければと考える。(濱野委員)
- ・不登校の子どもがコロナで実際に増えている。対症療法も必要だが、コロナもあり、共働き世帯が増えていて、子どもになかなか手がかけられないところもあるので、根本のところも何かしら考えられるといい。(溝口委員)

- ・発達障害や障害をもつ子どもについて身をもって知ることは本当に必要で、障害についての理解が深まっていく。(和田委員)

「目標6 柔軟で創造的な学習空間と安全・安心な教育環境をつくります」

- ・安全・安心の確保について、通学路の安全という部分が小学校は特に大切と感じた。(阿部委員)
- ・学校長は人材、システム、インフラの面から教育環境[隠れたカリキュラム]を管理し、笑顔とあたたかさあふれる学校づくりを目指していただきたい。(星山委員)
- ・安全・安心の確保について、地域としては防災訓練や安全パトロールなどをやっているが、防災訓練など地域によっては参加者が少なく子どもが来てくれるような目玉をつくりながらやっているところもある。この辺はぜひ学校にも、なるべく参加してもらおうよう広報活動をしていただけると地域としてはうれしい。(富田委員)

「目標7 学校・家庭・地域の連携・協働による地域コミュニティの核としての学校をつくります」

- ・以前、大森第六中学校では、地域の自然や史跡など、色々なものを授業に取り入れており、取組を整理してみると30、40の取組を外の人の力を借りながらやっていた。今後、コミュニティ・スクールを大田区で広げていくことにより、自分たちの周りの先輩や、地域住民の力をかりながら、色々な地域のある大田区の特徴が出てくるのではないかと。(堀内委員)
- ・地域とのかかわりあいもコロナで3年間ストップした場面が多数あり、これから回復していった目標を達成していったほしい。(加藤委員)
- ・子育てをしている保護者が、どうしても自分の子ども第一になりがちで、地域、あるいは学校側の立場に立ってものを見られない、あるいは、そちらの立場のことがよく分かっていないということをよく感じる。(溝口委員)
- ・授業についていけない子どもにコミュニティ・スクールが関わり、一人ひとりの子どもたちの立場で考えていくことで、取り残されていた子どもがそこに居場所を感じることができる。また、学力も向上する。(河合委員)
- ・家庭が地域から孤立しないよう、公立学校がコミュニティの核になってファシリテーションを担ってはどうか。(星山委員)
- ・コミュニティ・スクールについて、地域とのつながりがある人が、それぞれの学校にどれだけいるかが一番大事だと思う。学校と地域の温度差、情報共有ができていないところを地域とのつながりがある人がつないで、子どもたちの未来につながっていくような、基本目標3の将来の地域の担い手を育成していくという意味では、今スタートラインにやっと立てて、10年、20年後に何かしらの答えが出てきたらいいと思う。(河野委員)
- ・地域とは誰かと考えたときに、地域にいて子どもに関わりたい人はもっといるのではないかと。そういった方が参加できる形をつくっていただけたらいい。また、町会にも参加せず、親が子どもにかまわないで、取り残されてしまう人には違ったアプローチをしていかないと掘り起こせないのでは、今までの地域の主人公とは違う方に関わってもらおう形ができればいい。(伊藤委員)
- ・今回のビジョンの一つの柱は、いかにして大田区の家、地域の教育力を高めていき、ビジョンで掲げる教育の推進について、地域と一体になってやることをどう進めていくかが課題になっている。そこで、どこかの取組の中で、大田区家庭地域教育力向上計画というような、そしてその中で様々なところに出てくる地域、あるいは家庭の教育に関わる内容がどう位置付いているかということがぱっと見て分かるようなものをつくってはどうか。そして、個々の事業の中でも推進されるが、それが総合

的に進んでいるということが明示される、意識されるようなことを工夫してはどうか。（尾木座長）

「目標8 生涯学び続ける環境をつくります」

- ・生涯学習で図書館が大切な場になっていることはとても素晴らしいが、図書館だけではなく、郷土博物館など色々なところで子どもにとって生涯学習に結び付けていくことを勉強の糧としてつなげていけたらいい。（鈴木委員）

＜その他＞

- ・子どもたちの発達という視点で、幼児教育、小学校の低学年、高学年、中学校と、どの辺りがポイントになるのかという視点をどこかに入れておくと、骨組みがしっかりしてくるのではないか。（有村委員）
- ・30代、40代で子どもを育てるということ自体、3割ぐらいの家庭しかやっていないので、子育てをする、教育を受けるということ自体が、区民全体から見たときに特別なことなんだということを、どこかにおわせていただくといいかと思う。（溝口委員）
- ・大田区ではとてもいいことをたくさんやっていると思っているので、もしかしたら当たり前だからわざわざ書かないのかもしれないが、大田区ならではの教育の良さみたいところが、もう少しにじみ出るといいと思う。（溝口委員）
- ・就学前の保育園、幼稚園と小学校との連携や、小学校と中学校で進めている一貫教育のことが見えないので、組み込んでほしい。（阿部委員）
- ・ICTに関する内容が色々出てくるが、これは今の教育の中で色々な側面が進行しており、対応が求められているところだと思う。そこで、大田区の情報化対応計画というような、散らばっている様々な要素をまとめたものにして、関わりを押しえた上で、対応が進められるようなことができるといい。（尾木座長）

6 今井教育総務部長挨拶

本日は、委員の皆様から貴重なご意見をたくさんいただき感謝申し上げます。

体系案をご議論いただいたが、作成にあたっては現行ビジョンのこれまでの成果と課題の検証、第1回で皆様からいただいたご意見、中学生からいただいたご意見を踏まえた上で、未来を見据えて課題を確実に解決するようなビジョンとするべく、またそれにふさわしい体系案として、分かりやすさと新しさ、大田区らしさが表れている体系案となるよう心がけた。本日、皆様から本当に貴重な意見をいただき、作成した我々が気づかなかった体系案のよさや改善点などに気づかされた。いただいたご意見を踏まえ、さらにブラッシュアップして固めてまいりたい。

今後はいよいよこの体系を具現化するための具体的な取組について議論し、素案を作成する重要な局面に入る。引き続き委員の皆様には、ご意見、ご指導をいただきたい。